

地球倫理の確立

吉田収

序 論

今年5月24日から26日まで広島で63ヵ国約300人参加の「子供のための諸宗教地球ネットワーク」のフォーラムに参加しました。夜遅く用意されたホテルに着きその中華料理店で安い方の五目麺を注文したのですが、立派な部屋と料理に、ふと餓死する子供達のことを思い涙が止め処なく流れました。「共(友)」である事を言いながら実際には彼等を差別しているのだと判ったのです。この事を会議の席で報告し、「有難う」、「勿体無い」は周知だろうが「頂きます」と「諦める」も憶えて欲しいと頼みました——尊い命を頂いて生かされていること、明らめるから諦めるのだということ。司会者は自分の家では何百頭も牛を飼って殺して食べるのは何とも思わなかったと言いました。そこで被害者、犠牲者の立場に立つ事が平等、平和に大切だと申しました。会議の初めに原爆犠牲者に黙祷しましたが、原爆資料館を巡って、「エゴはエコともエシク(倫理)とも両立しない」と覚りました。原爆や温暖化などの問題もエゴの問題だと会議で指摘しました。差別があるから搾取、殺戮があり、それを当たり前とする錯誤と束縛の五禍があり、これらは深く関わっています。

人類によって引き起こされた地球問題群は地球生命系を無視した自己中心主義の迷妄と盲動が根本原因です。「群盲象を撫でる」の喩は全体観と実践力が肝要であることを示しています。地球生命体系(システム)の真理とその倫理が切り離せ

ない事は知と行が切り離せないのと同様であり、密接不可分に関係しています。知が広く深く透徹していれば行もそれに応ずる筈です。知が智と成るか痴と成るかにより結果は楽か苦になります。悟りの智慧は「重々無尽(無限に重層的)の法界(真理世界)縁起(因縁生起)を見て、真実諦(真実のあり方)と世俗諦(世俗のあり方)の二諦を提示しました。真実諦では縁起無我(システムは縁起したものだから相依相対で独立絶対の実体は無い)から五戒、十戒は当然の行であり地球倫理も自然、当然の法です。世俗諦では仮構(仮に構想された)「我」を認め全体縁起の調和を軽視する(真実には全体システムの下位一部である「我」やその集団の「擬似我」を上位全部であると妄信、盲動する)から破戒もあり倫理の確立はあり得ません。しかし地球問題群が悪化するのに倫理の確立が無ければ地球生命系は崩壊から破局に向かいます。それを回避するには「エゴ(自我:部分)からエコ(環境:全体)へ」の根本的な「枠組転換」が必要です。その為「地球倫理の確立」には全体観と実践力の実習、実践と学習、教育が不可欠です。

本 論

1 問題

人類の人口爆発、食料不足、資源枯渇、環境汚染、生物種多様性喪失、地球温暖化等の地球規模で相互に関連する「地球問題群」は種の大絶滅の過程に入りました。三千種の一つに過ぎない人種

は毎日百種以上の他生物を絶滅させ、人種も現在の1%しか生き残れないと言われるような(ラブロック)問題に直面しています。その上に、このような問題があることを知らず、無いと主張する者もあり、知っていたとしても目先の事に追われて将来の大規模な問題に対応できないとか、解決策が判らず、対策も遅々としており問題の暴走で手遅れになるといった問題があり、病膏肓に入り危篤状態にあります。

2 原因

縁起、因果の法からして問題には原因があります。地球問題群の原因は人間の行為にあり、「物と力の奪い合いの文明」が地球生命体系を癌の様に侵食している為です。その根本は動物の生存欲として働く貪瞋痴(三毒)にあります。その根源は痴(自己中心という根本的無知)にあります。中でも人間は言語と技術を進歩させて三毒を巨大化、暴力化させました。地球生命体系は体系としては自動調節的に全体健全に機能して来たのですが、今や文明の金字塔体系が自然の円循環体系を差別、搾取、殺戮しているのです。

下位、部分体系は上位、全体体系が破滅しなくとも破滅しますが、その逆はあり得ません。癌は母体を侵食して終に自らも滅びるのですが、文明も人類も母体より先に崩壊、破滅するでしょう。それは文明、地球問題群等の「大小の過誤」という無知と盲動の狂暴化が原因です。即ち地球生命体系の真理を知らず倫理を行なわないから問題と苦悩があるのです。縁起の法則からは時空一切のものが関連影響し合っているのですが、世俗では自我、自社、自国あるいは文明、文化、経済、社会等を差別、分別しています。「テロとの戦争」等が成功しないのは真理(の覚醒)、(それによる) 自由、平等、博愛、平和(五福)が相互に密接不可分なのに全体的解決でなく部分的解決にこだわるからです。倫理は社会体系健全の為ですが、今や地球生命系健全のために(部族、国家、宗派、党派を超えた)「地球規模の地球生命系」の地球倫理が必要であり、その確立が焦眉の急となっています。

3 解決

錯誤から問題が、欲望から苦悩が縁起します。縁起したものは縁滅により消滅、解決します。不自然人工の問題を自然本来の解決に戻すには人間の錯誤、盲動を止め転換すれば可能です。それは人間の金字塔文明を地球の円環的自然に従う「心と命の分かち合いの文化」へ、エゴ(部分、小体系)からエコ(全体、大体系)へ、三毒(貪瞋痴)から三学(戒定慧)へ、五禍(人工、異常)から五福(自然、正常)へ「枠組転換」する必要があります。政治、経済、社会、文化のあらゆる面で現行のエゴ(国家主義、資本主義、利己主義、個人主義)を出発点とする諸体系(法律、制度、機構、機能)を力、物、命、心が縁起の法則により「共に友である」全体健全の立場から再考、再編、再帰、再生しなければなりません。(生命、環境を第一とし心と命の真善美聖の価値の再創造や地球体系の5S、地球倫理の5Lについては会報第二号の拙稿参照。)

地球生命系は縁起全体調和の体系であり、その健全回復には全体生命健全化のための五戒(宇宙全体体系所産の不可逆、不可換、不可償の生命の不殺、物質的資糧の不盗、社会的支持の不偽、性別、世代的嗣子の不淫、生活的姿勢の不酔)に基く地球倫理(不殺、不盗、不偽、男女の平等な共同精神)が必要です。倫理不履行は体系内外の不健全、不機能、分解、崩壊に至りますが、履行すれば健全、機能、共働、共栄となります。地球倫理は個人、社会、地球の諸レベルで日常的、永続的に実践する「生活転換」が必要です。(その具体的物資流の5R、情報流の5Aについては会報第二号の拙稿参照。)

4 方法

地球問題群の具体的解決法は問題を生み出している人間の行為(業)を止める事にあります。人間は即成、即物の名利を求めて「忙」しく心を亡くし、「慌」てて心荒み真善美聖を失い、邪見、悪業を省みる事さえしません。坐禅は業(身口意、宿古新の三業)を止め、三毒を鎮め、無我、無限

の根源、聖性に還って真善美を享受する智慧、清浄無苦平安の涅槃を得る（五戒、五福成就）方法です。それは人種、性別、年齢等に拘らず誰もが達成享受でき、全体的客観的真理、実践的慈善的倫理を獲得共有すべき方途でもあります。

地球倫理の具体的方法として、1) 殺生は一切の可能性を絶ち、取り返しの出来ない最悪事であるので生命尊重が第一に守るべき事であり、2) その資量（物資）を盗らず、3) その支持（情報）を偽らず、4) その嗣子（他性、種、世）を育てる事が必要です〔言い換えれば 1) 生命尊重、2) 公平経済、3) 真実生活、4) 平等共同〕。地球倫理は地球生命健全化の根本的普遍の原則です。これを個人、集団で（地球倫理宣言、普遍人間責任宣言等の）宣言、法律、制度、機関などで共に友として確認、実践、教育、普及すべきです。

倫理は時代、社会の発展と共に進展して来ました。これまで五戒、十戒などは自己集団（部族、国家、宗教等）内部で守られても、外部に対しては必ずしも守られませんでした。十戒も宗教により異なり自己の観点を主張して理論的に一部問題があり、実践的には大いに問題がありました。しかし 1993 年に世界宗教会議が出した「地球倫理宣言」の地球倫理は前提条件無しに先ず「殺さない」「生命を尊重する」、「盗まない」、「経済的公正を守る」などの誰もが受け入れられる原則を守り実行しようというものです。その点では従来の（信仰第一で異端者は殺しても良いというような）自己中心主義を超越して、「殺さない」ということが最優先であり、更にその為の普遍的必要条件を原則として加えています。これは歴史的、社会的に画期的なものです。地球倫理が普及し、実践され、確立すれば、そして「普遍人間権利宣言」の不可欠の対応物としての「普遍人間責任宣言」が採択、発布されれば、この世から戦争やテロ、貧困や餓死、環境や資源の問題が解決解消されるでしょう。

長く広いスパンで見れば情報化、民主化、地球化により人類、生類、生命系はますます一体である事が明確になり、一体化が進んでいます。地球上の出来事は瞬時に伝わり、共有でき、共同で対

処すべくより多くの人々が努力しています。網の結び目に水晶の珠のついたインドラネット（帝釈網）のようにインターネットは世界を繋ぎ反映し反応しています。地球問題群の暴走、人類破滅の前に情報、物資、人間、地球の体系が全体健全になる為には地球倫理の確立が必須であり、個人、集団、世代にわたり実践、学習、教育、普及することが共にある友としてのすべての人の責務です。

結 論

縁起の法と律（真理と倫理）を徹底的に洞察、実践すれば問題群を改善、解決できるでしょう。縁起からは仮構の我（宗、国等）による闘争は波及・相乗効果で（集団、種族、生命系等）体系を分断、分解せしめ、体系崩壊、体系破滅（疎外は体系阻害、破戒は生命破壊）となります。全生命体は 40 億歳の兄弟姉妹であり、全生命系（地、水、日、風、空、遺伝子、栄養、情報等）はその本質・機能（「生命」大海から分別、独立しているとの「吾我」泡沫は仮構で、一切が生命体系の一体不可欠要素）である事を知り、心と命の真善美型を分かち合い育て合えば、無量寿、無量光、無量愛、無量行を達成できます。宗教は一体世界の真理と全部友（共）となる倫理を説き、罪悪（sin = separation）を止め健全（holy = wholesome whole）へ再結合（re-ligion = re-ligare: Latin）して、真の自由（free-dom = priya-dhāman: Sanskrit beloved-domain）を目指すものです。宗教は全体的真理の智と実践的倫理の行を達成するものですから、宗教者が真の目的に邁進するならその数、力からしても地球倫理は確立し地球生命系は安立するでしょう。